

就労と治療の両立・職場復帰支援 (糖尿病) 研究中間報告 (平成23年度)

中部労災病院
職場復帰両立支援(糖尿病)研究センター
佐野隆久

就労と治療の両立・職場復帰 支援(糖尿病)研究

国の政策医療である勤労者医療対策として労働者健康福祉機構は労災疾病等13分野の医学研究・開発・普及プロジェクトを平成16年より開始しており、本研究はそのプロジェクトの1分野で平成21年度よりスタートしております。

今回は研究内容の一部である糖尿病患者・企業アンケートの調査結果を報告します。

本研究の目的

背景

- ・ 現在の我が国は少子高齢化により労働人口の減少とともに就業者の年齢構成も高齢化している。
- ・ このような現状において労働人口の低下に繋がる疾病対策は重要な問題である。
- ・ 生活習慣病の一つである糖尿病患者は増加の一途をたどりまたその合併症にて休業、離職を余儀なくされる就業者も増加している。

目的

- ・ 以上のような実情を踏まえ企業における就労糖尿病患者の現状および問題点を調査。
- ・ 糖尿病患者の就労と治療の両立・職場復帰支援を目指す。

労働力人口の推移(平成22年度版厚生労働白書資料編「労働力人口の推移」に2008と2010年を「労働力調査」から追加)

(万人、%)

年	1990年	1995年	2000年	2006年	2008年	2010年	2017年	2030年
年齢	(平成2年)	(平成7年)	(平成12年)	(平成18年)	(平成20年)	(平成22年)	(平成29年)	(平成42年)
計	6,384	6,666	6,766	6,657	6,650	6,590	6,556	6,180
15～29歳	1,475	1,603	1,588	1,329	1,249	1,190	1,163	1,019
比率	(23.1)	(24.0)	(23.5)	(20.0)	18.8%	18.1%	(17.7)	(16.5)
30～59歳	4,177	4,197	4,260	4,362	4,305	4,217	4,220	3,887
比率	(65.4)	(63.0)	(63.0)	(65.5)	64.7%	64.0%	(64.4)	(62.9)
60～64歳	372	421	426	446	530	598	489	586
比率	(5.8)	(6.3)	(6.3)	(6.7)	8.0%	9.1%	(7.5)	(9.5)
65歳以上	360	445	493	521	566	585	685	686
比率	(5.6)	(6.7)	(7.3)	(7.8)	8.5%	8.9%	(10.4)	(11.1)

資料:1990、1995、2000、2006、2008、2010年は総務省統計局「労働力調査」、

2017年以降はJILPT「平成19年労働力需給の推計」。

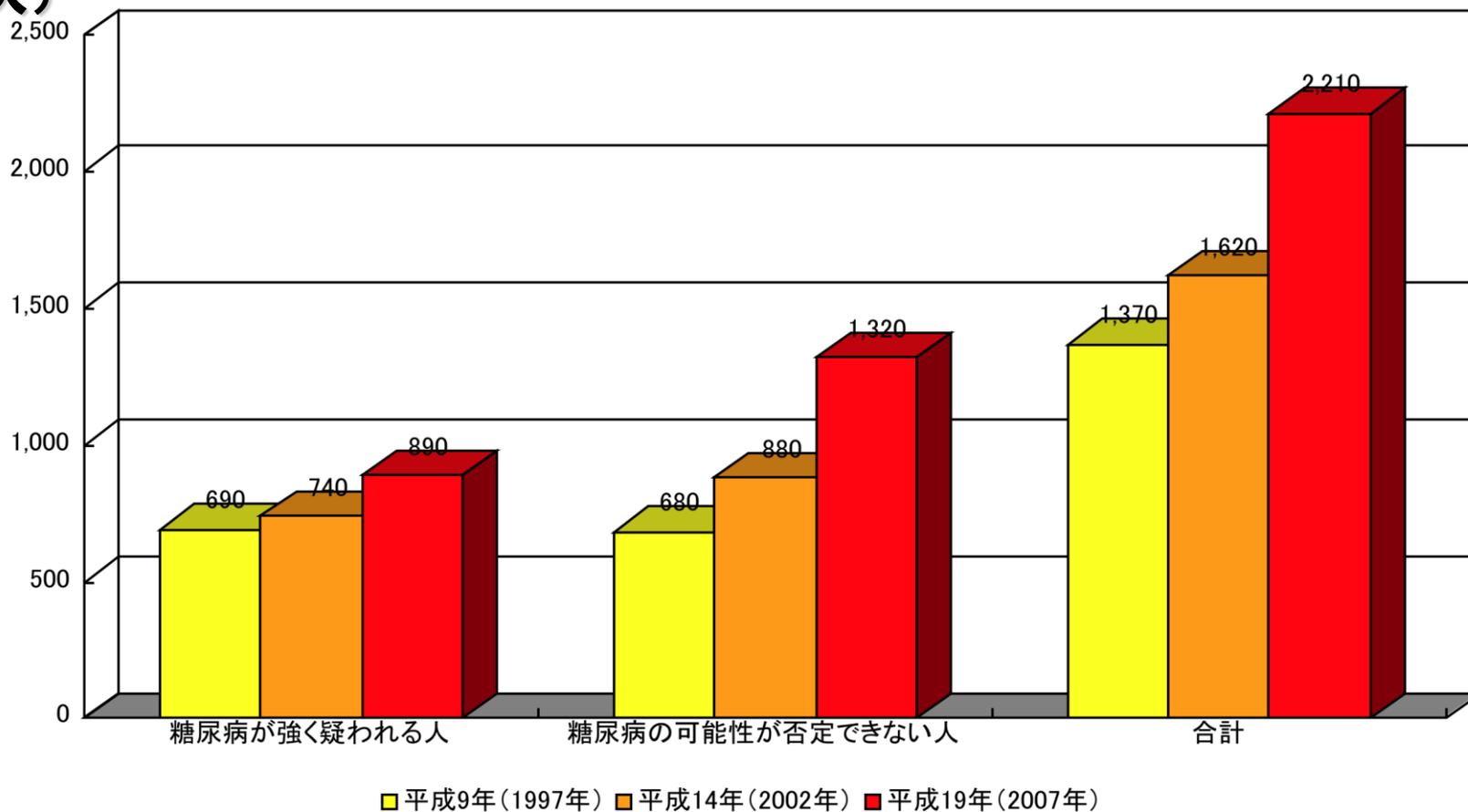
(注)1.()内および%表示は構成比

2. 推計値については、概数で表示しているため、各年齢区分の合計と年齢計とは必ずしも一致しない。

3. 当該推計は2006年の「労働力調査」の数値を基に推計している。

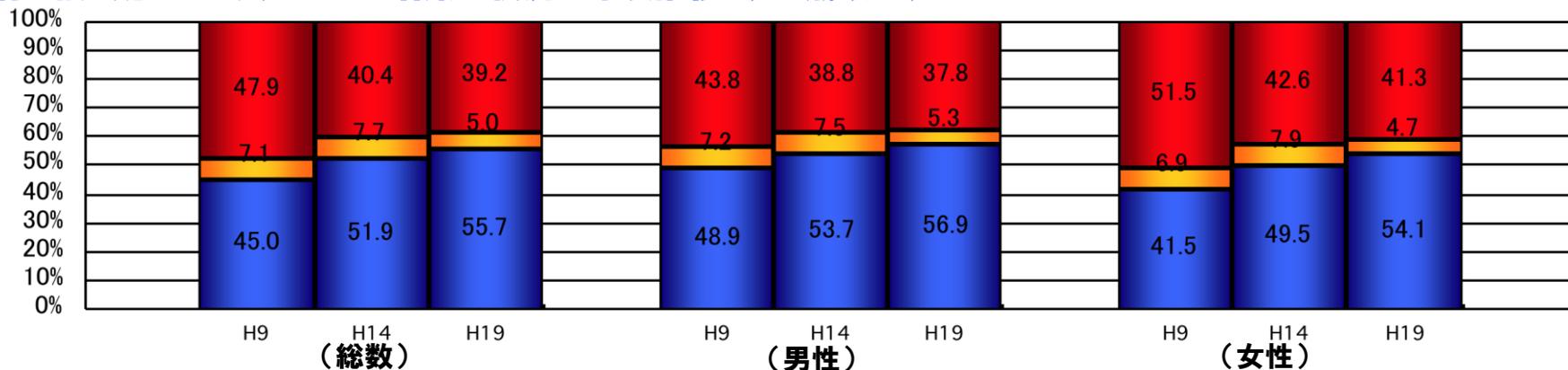
糖尿病患者数の増加

(万人)

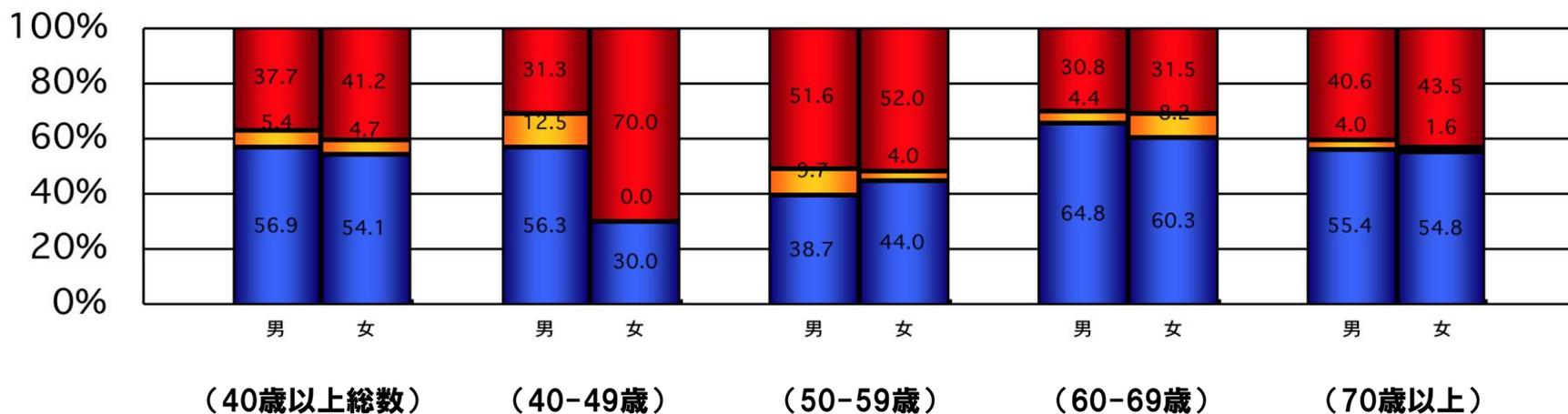


糖尿病が強く疑われる人における治療の状況

糖尿病が強く疑われる人における治療の状況の年次推移（20歳以上）



糖尿病が強く疑われる人における治療の状況（40歳以上）



■ 現在受けている
 ■ 以前受けたことがあるが、現在受けていない
 ■ ほとんど治療を受けたことがない

主要な疾病の総患者数

厚生労働省 平成20年患者
調査の概況より

	総数	男性	女性
悪性新生物	151.8	83.7	68.0
虚血性心疾患	80.8	46.4	34.8
脳血管障害	133.9	65.0	68.9
高血圧性疾患	796.7	334.0	464.3
糖尿病	237.1	131.0	106.1

(単位:万人) 平成20年10月現在

総患者数(傷病別推計):調査日現在に
おいて継続的に医療を受けている者

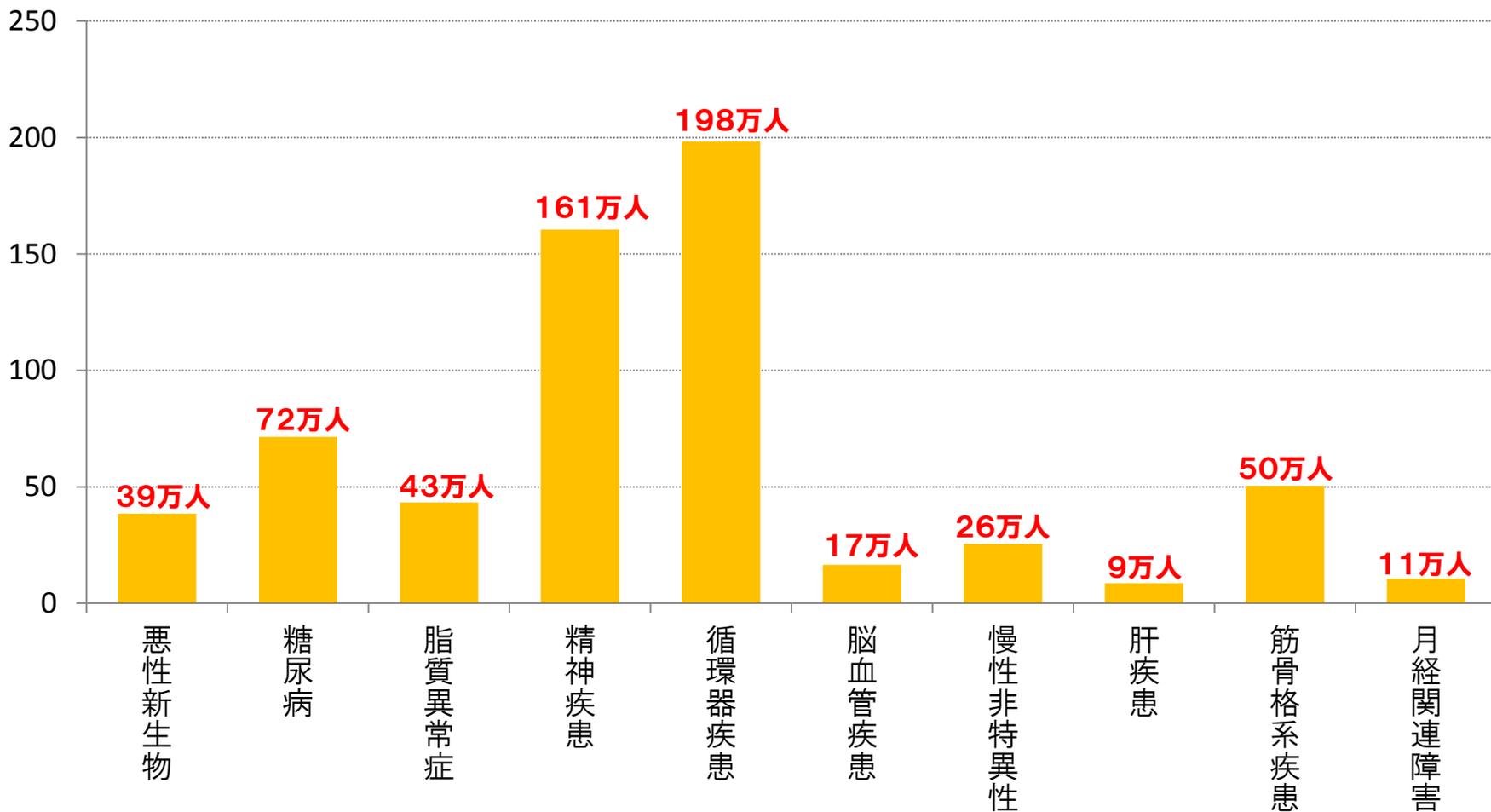
糖尿病定期通院を自己中断した理由(J-DOIT2)

中断理由；

- 仕事で忙しかった (51%)
- 通院が面倒 (14%)
- 家族に病人が出た等 家庭事情 (9%)
- 内服なく調子よいため自己中断した (6%)

男性・若年・サラリーマンや専門職に中断多い。

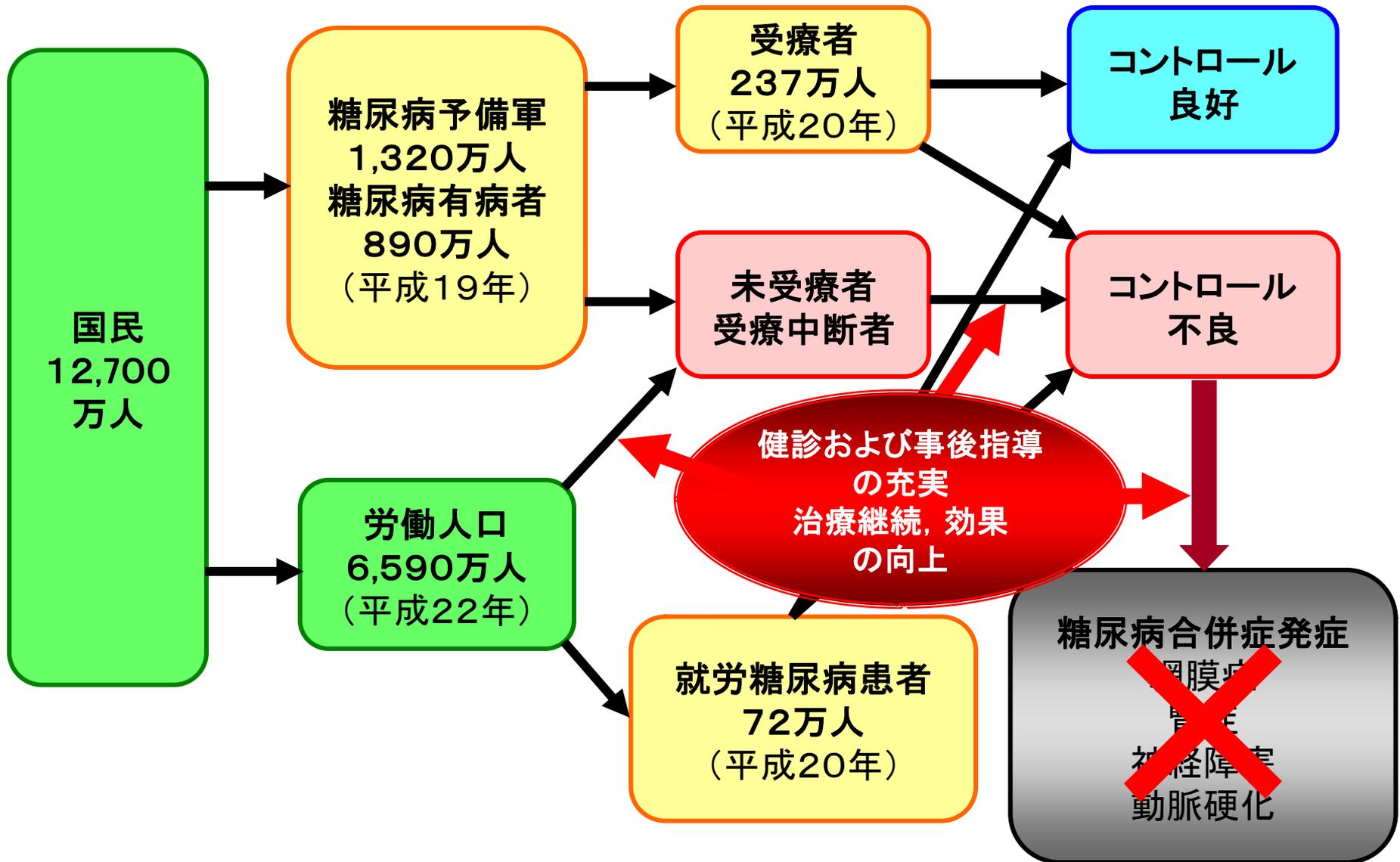
主な疾病に罹患している労働者の総患者数(平成20年度)



「精神疾患」・・・気分障害、ストレス関連障害、睡眠障害等
 「循環器疾患」・・・高血圧、虚血性心疾患
 「脳血管疾患」・・・脳梗塞、クモ膜下出血、脳内出血
 「慢性非特異性呼吸器疾患」・・・慢性閉塞性肺疾患、喘息
 「肝疾患」・・・肝硬変、肝障害
 「筋骨格系疾患」・・・頸腕症候群、腰痛症、関節症、椎間板症
 「月経関連障害」・・・月経障害、閉経期周辺障害

<総患者数>
 厚生労働省「平成20年度患者調査」
 <労働人口>
 年齢階級別総患者数(15～64歳)×年齢階級別労働人口比率(15～64歳)
 <年齢階級別労働人口比率>
 総務省「年齢階級別労働力人口比率(平成20年度)」

本研究の目標



現在までに施行した調査

- 患者アンケート
- 企業アンケート
 - A. 予備調査(2010年)
 - B. 本調査(2011年)

アンケート方法

- 1、労働基準監督署、労働基準協会よりご紹介いただいた東海地区の大中小企業に対してアンケート調査を実施。
- 2、中小企業の事業主・労働者の健康指導・健康相談を行っている地域産業保健センターにより中小企業の紹介をいただきにアンケート調査。
- 3、主治医側からの患者個人個人の状況調査のために中部ろうさい病院糖尿病センターにて治療中の就労糖尿病患者にアンケート調査。
- 4、当センターと病診連携を行っている複数の実地医家における就労糖尿病患者にアンケート調査を拡大。

患者アンケート

企業アンケート

A: 予備調査(2010年)

B: 本調査(2011年)

対象: 当院ならびに名古屋市内および
その近郊の実地医家(計17医院)に
通院中の勤労糖尿病患者, 計349名.

中部ろうさい病院と関連実地医科通院

就労糖尿病患者へのアンケート 調査内容

1、糖尿病の実態：

患者状況（年齢、性別、罹病期間、HbA1c値）

治療内容（食事運動療法単独、血糖降下剤治療、インスリン治療）

合併症状況（糖尿病網膜症、糖尿病腎症、糖尿病神経障害、心筋梗塞
脳梗塞、脳出血、糖尿病性壊疽）

2、就業状況：

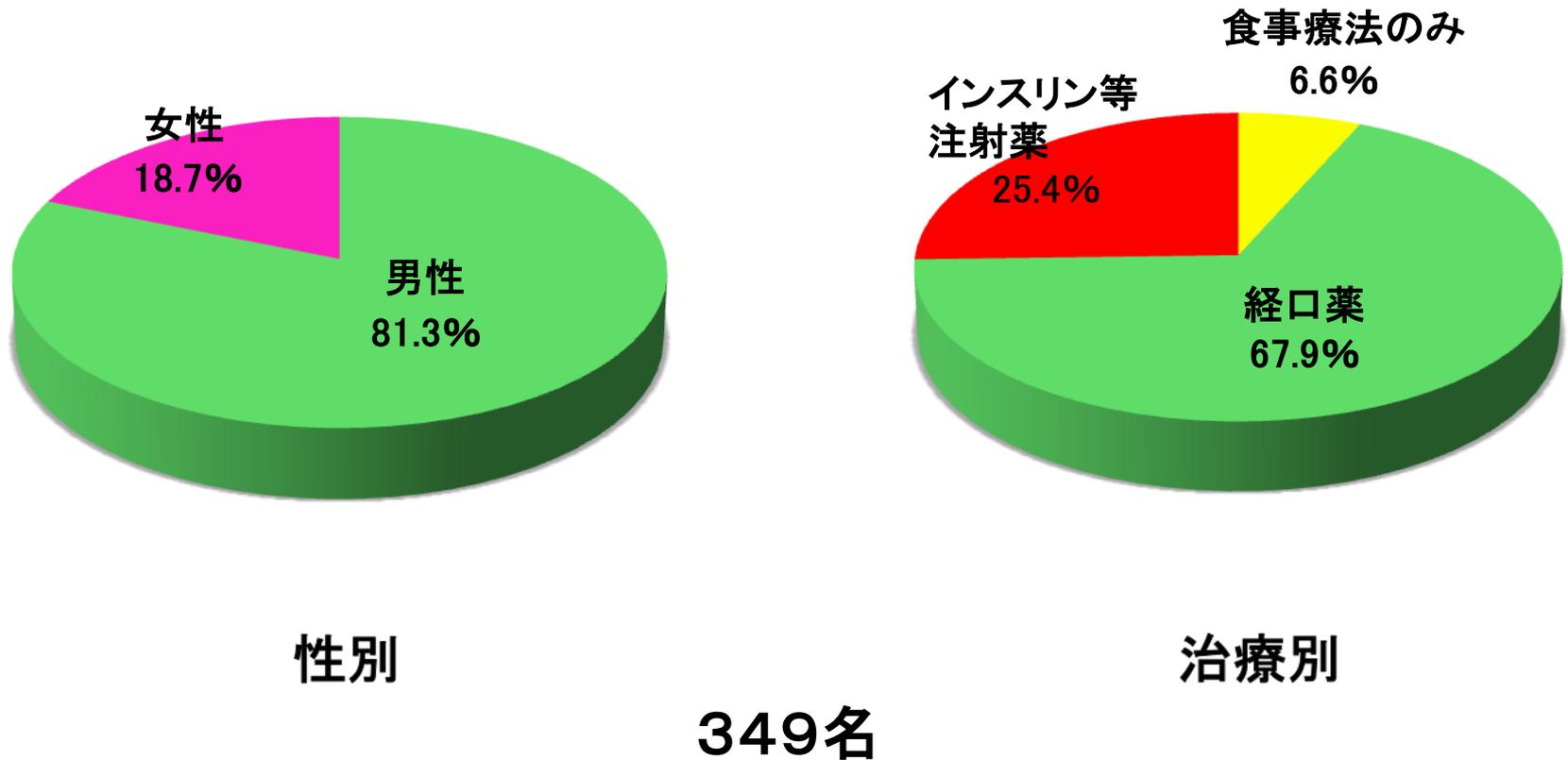
就業状態（労働強度、交代勤務の有無）

休業状況（休業時間数、休業内容、治療入院数）

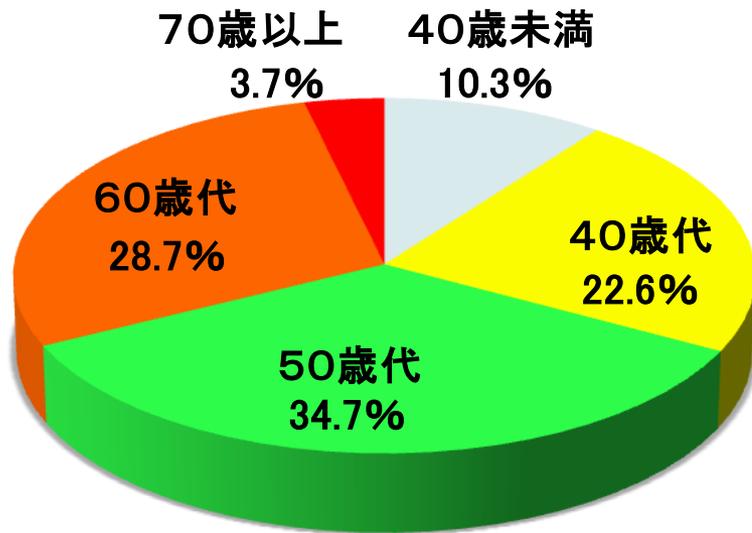
産業医との連携の有無

3、その他：

対象患者背景(1)

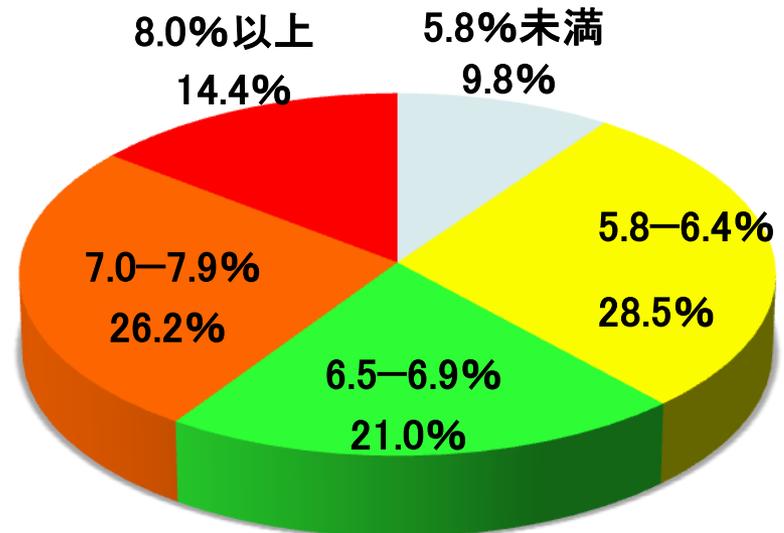


対象患者背景(2)



年代別

平均年齢
54.0±10.1歳

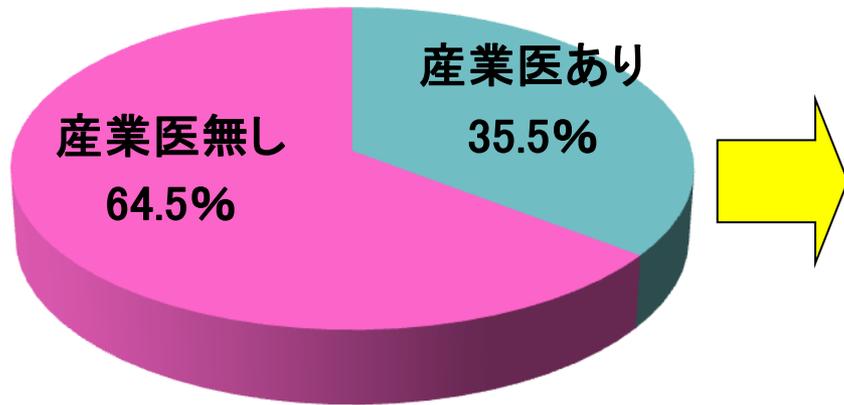


血糖コントロール状況

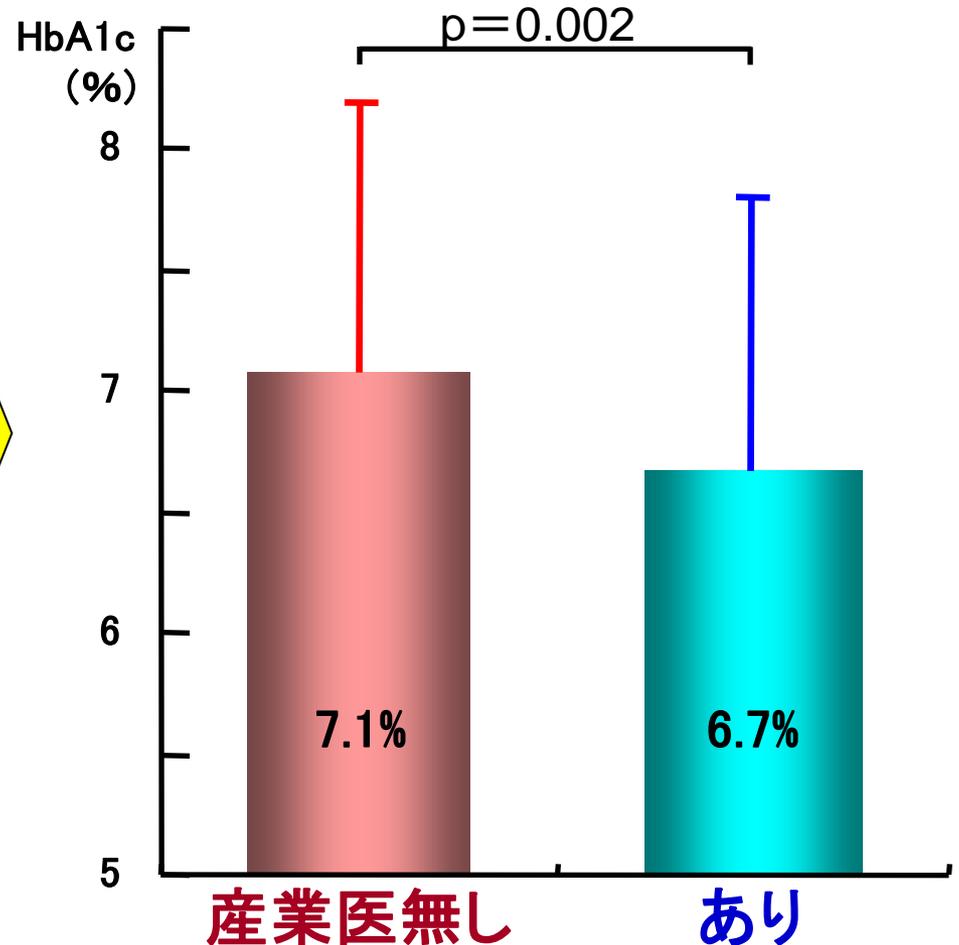
平均HbA1c値(JDS)
6.9±1.1%

産業医の有無と糖尿病コントロール

年齢・性別で補正したHbA1c (JDS) 値

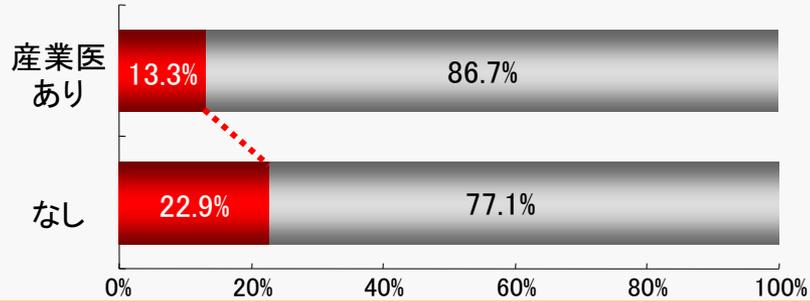


(Q. 職場に産業医はいますか?)

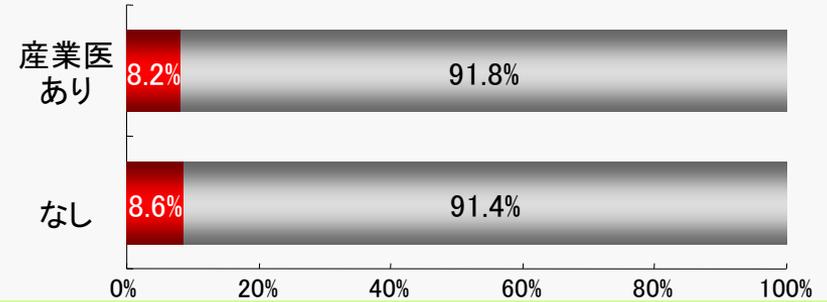


(※従業員数での補正を追加後も $p=0.008$)

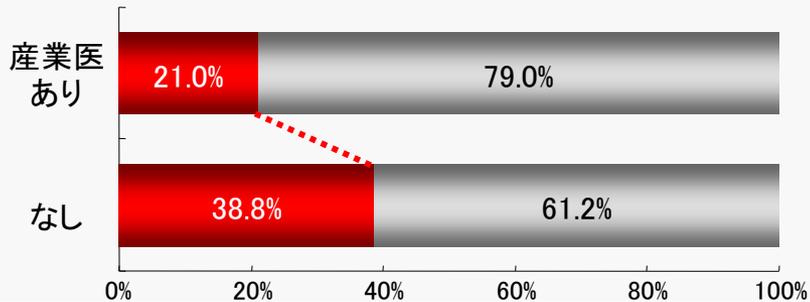
産業医の有無と合併症



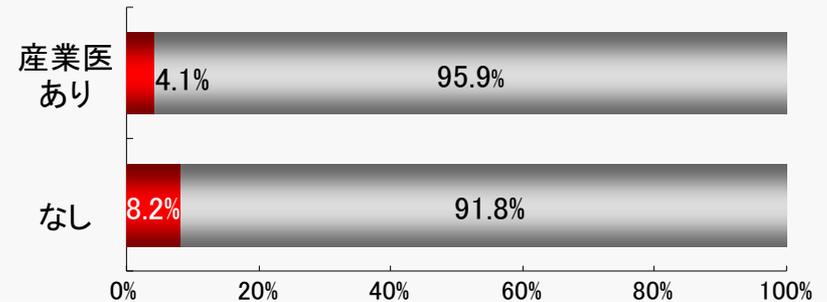
網膜症 ($p=0.046$)



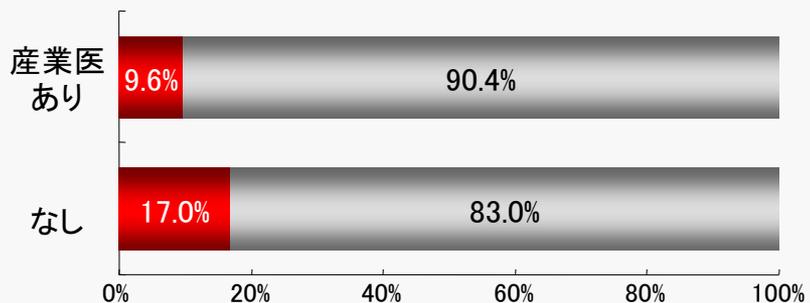
虚血性心疾患 (N.S.)



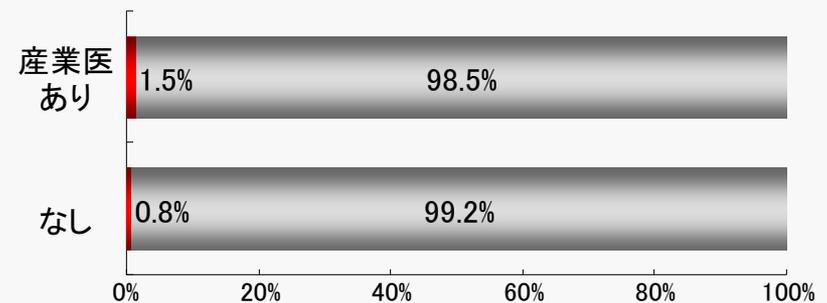
腎症 ($p=0.001$)



脳血管障害 (N.S.)



神経障害 (N.S.)

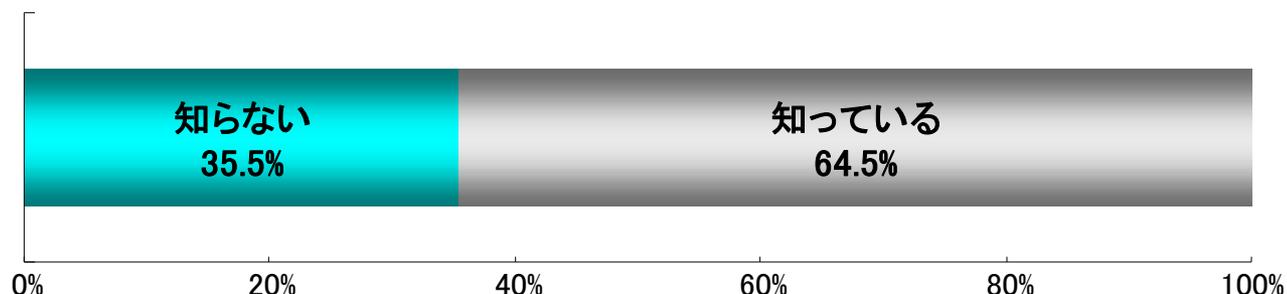


ASO (N.S.)

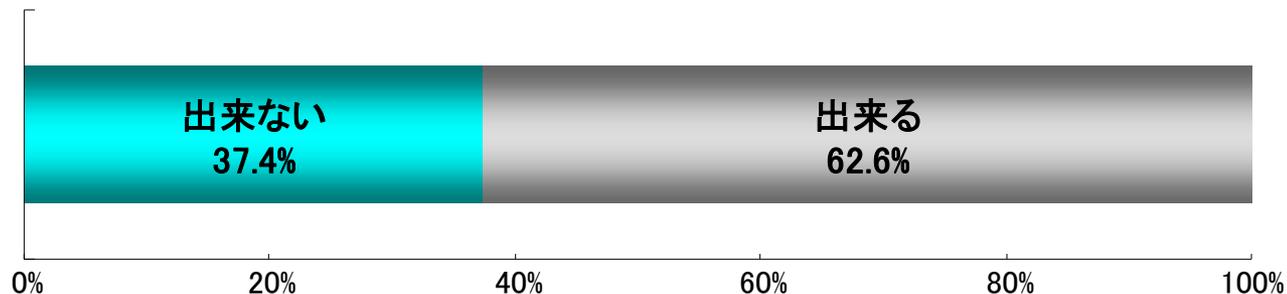
職場における医療スタッフとの関わり

～職場に産業医・看護師などの医療スタッフがいる場合～

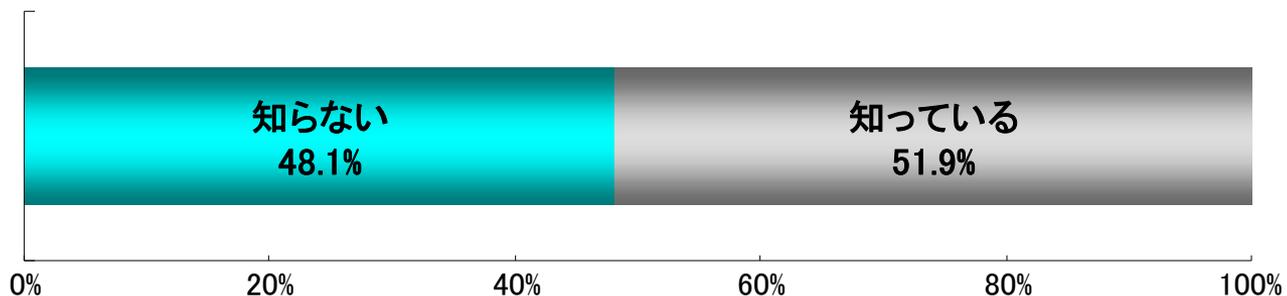
あなたが
糖尿病であることを
知っているか？



糖尿病について
相談出来るか？



あなたの
治療状況を
知っているか？



患者アンケート 企業アンケート

A: 予備調査(2010年)

B: 本調査(2011年)

愛知労働基準監督署, 名古屋市内の
各労働基準協会, 愛知県産業保健推進
センターよりご紹介の企業
計323社より回答あり.

企業アンケート調査内容

1、糖尿病の実態：

糖尿病診断基準・罹患率・重症度・治療状況・治療内容

2、就業状況：

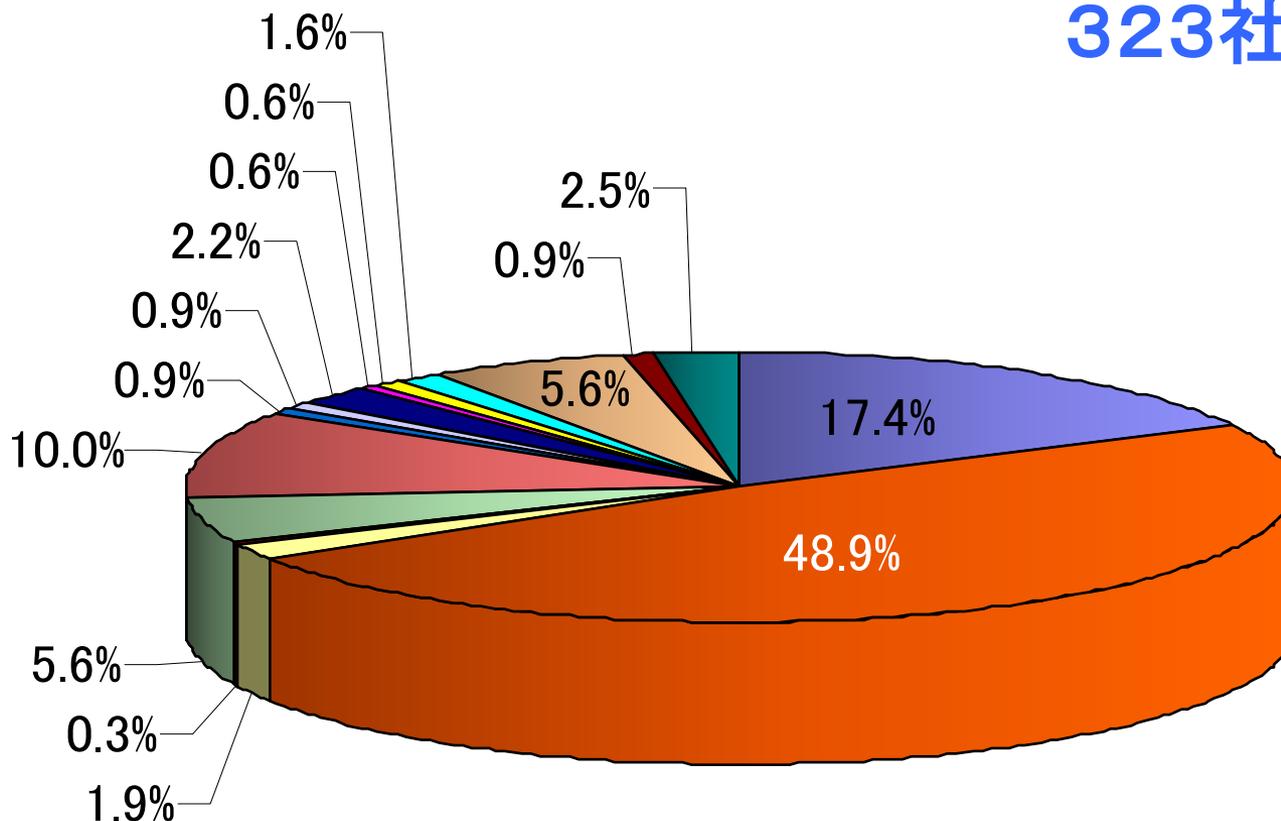
就業状態・休業状況・就業制限の有無、内容・職場復帰の問題点

3、医療連携の実状

4、企業が抱える問題点

対象企業 (1)

323社



建設業

製造業

電気・ガス・熱供給・水道業

情報通信業

運輸業, 郵便業

卸売業, 小売業

金融業, 保険業

不動産業, 物品賃貸業

学術研究, 専門・技術サービス業

生活関連サービス業, 娯楽業

教育, 学習支援業

医療, 福祉

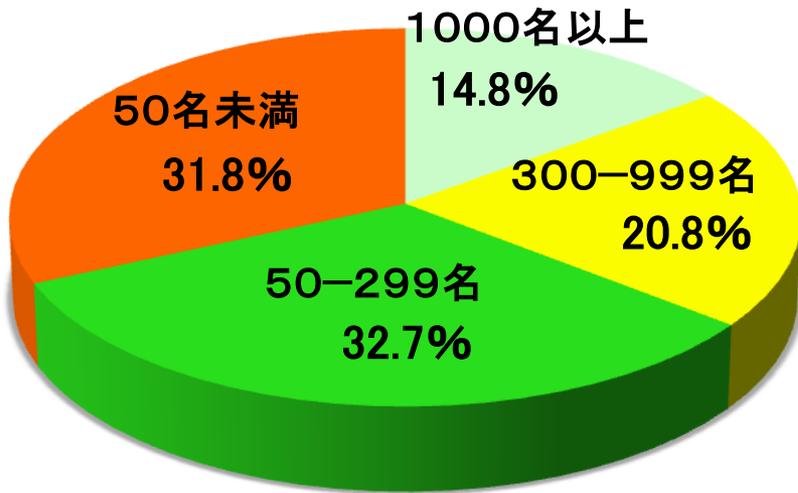
サービス業

公務

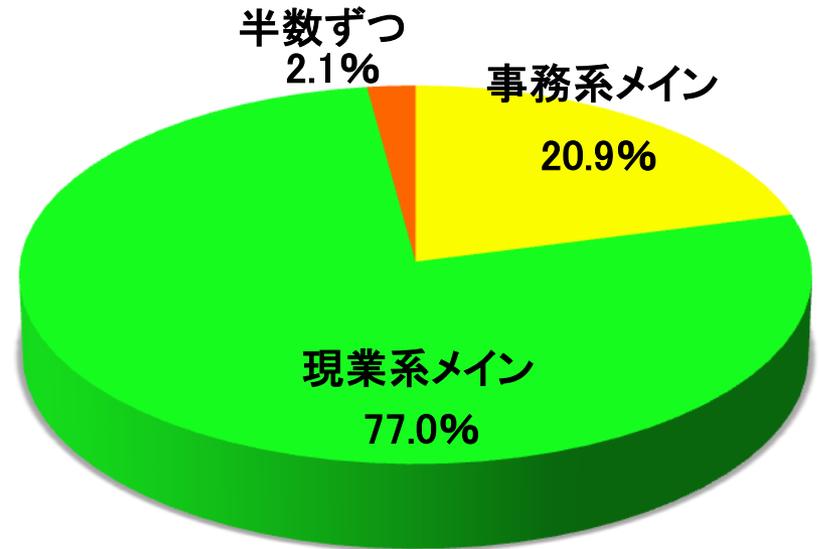
分類不能の産業

対象企業(2)

計 323社

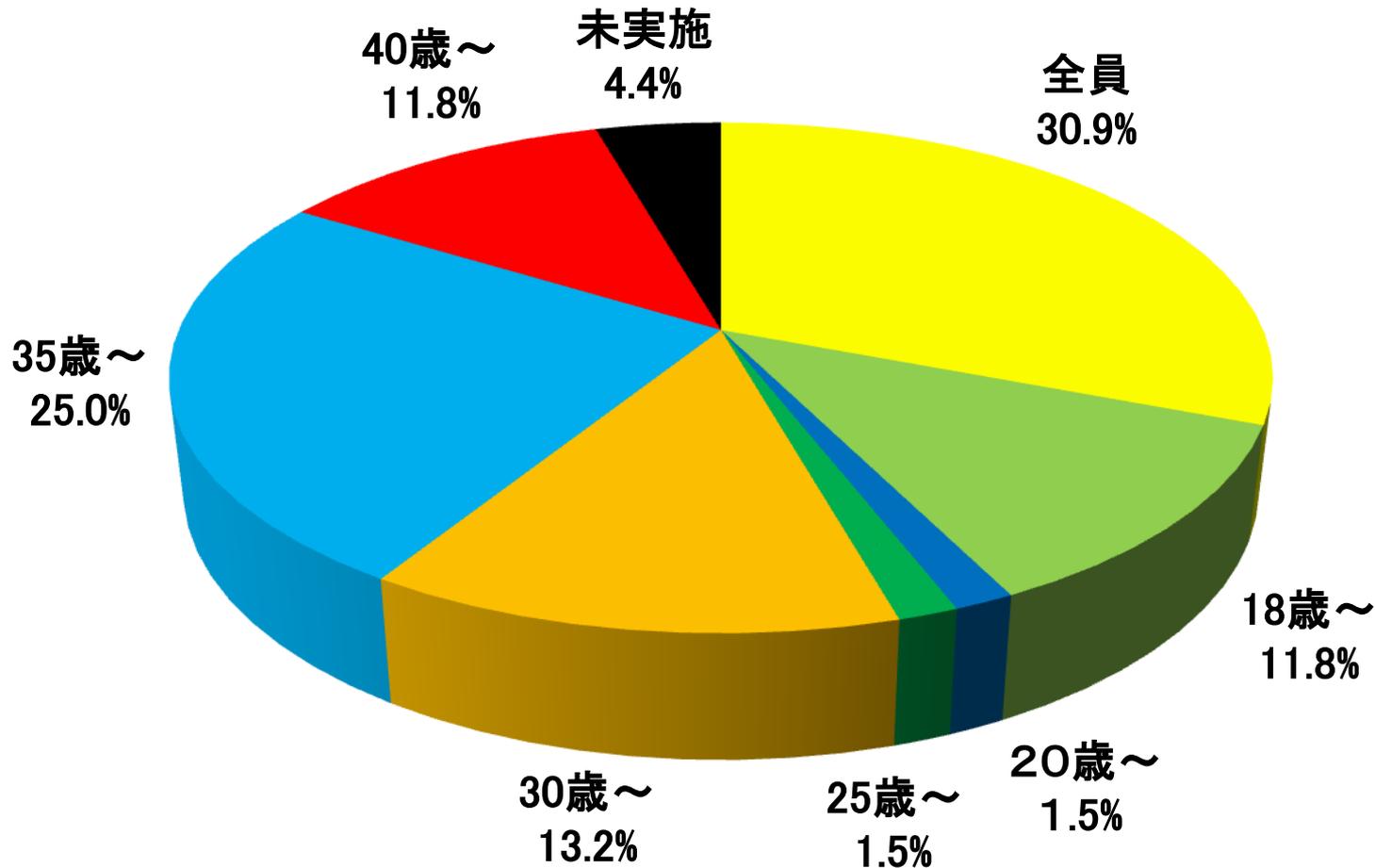


従業員数



業種別

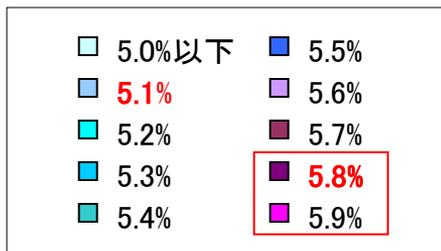
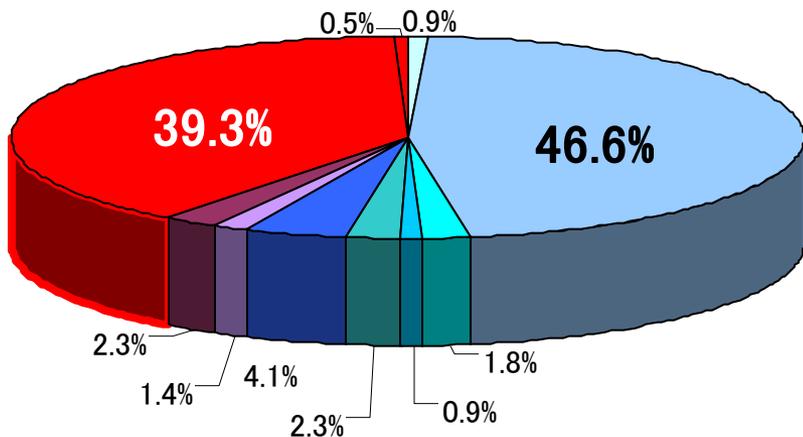
定期健康診断について



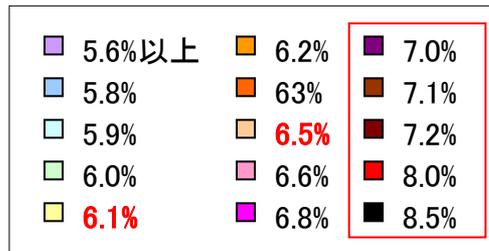
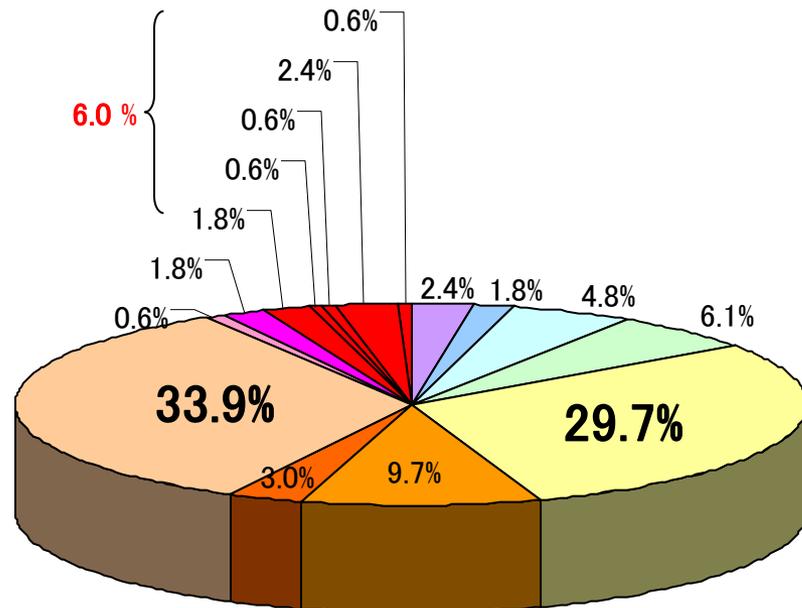
HbA1c実施対象年齢

定期健康診断におけるHbA1c判定基準(JDS値)

A判定 (正常)



D判定 (要医療あるいは要精査)



企業規模, 産業医とHbA1c値(JDS値)

HbA1c値(%)	大企業	中企業	小企業
A判定(正常)	5.4 ± 0.3	5.5 ± 0.3	5.4 ± 0.4
D判定(要精査・医療)	6.3 ± 0.4	6.4 ± 0.5	6.3 ± 0.4

大企業:300名以上, 中企業:50~299名, 小企業:50名未満

HbA1c値(%)	常勤産業医	非常勤	不在
A判定(正常)	5.5 ± 0.4	5.4 ± 0.3	5.4 ± 0.3
D判定(要精査・医療)	6.5 ± 0.7	6.3 ± 0.3	6.3 ± 0.4

A判定:以下, D判定:以上

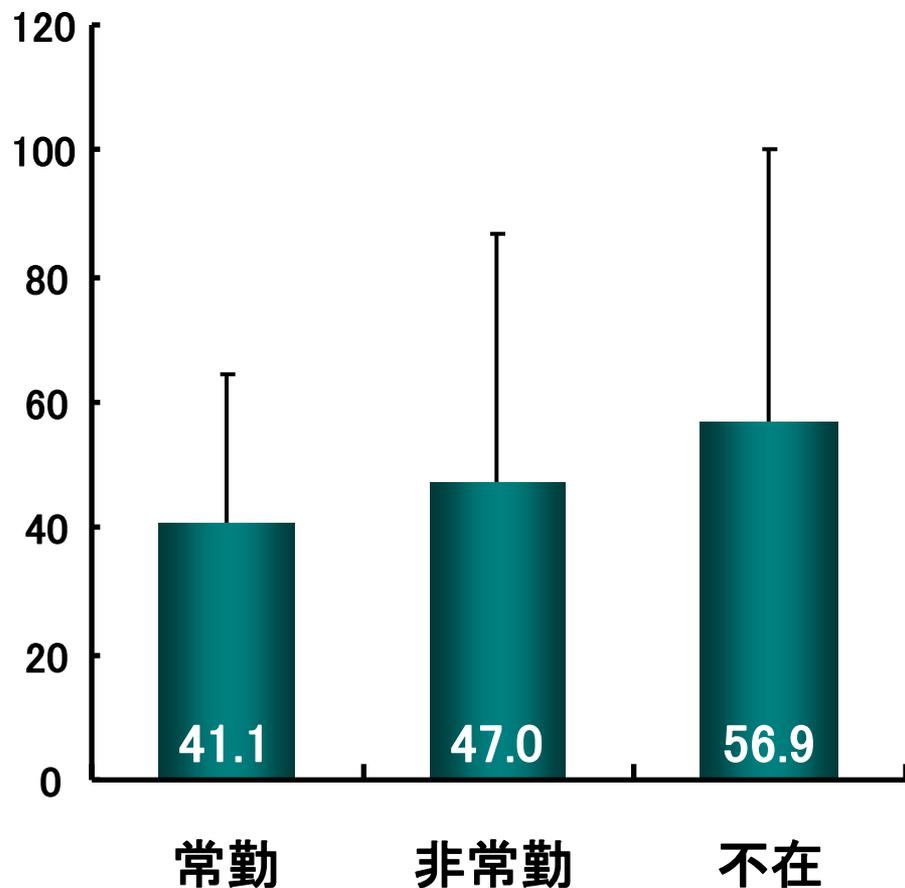
※いずれも有意差無し

糖尿病 年齢調整有病率

産業医別

N.S.

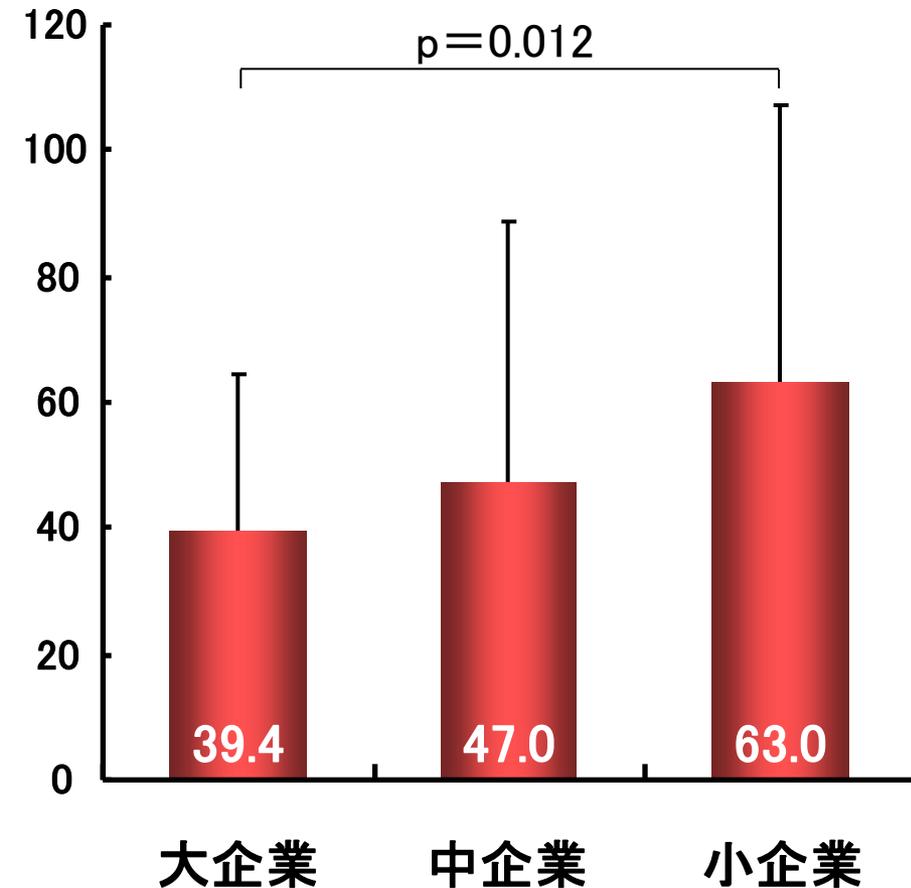
(人/千人あたり)



企業規模別

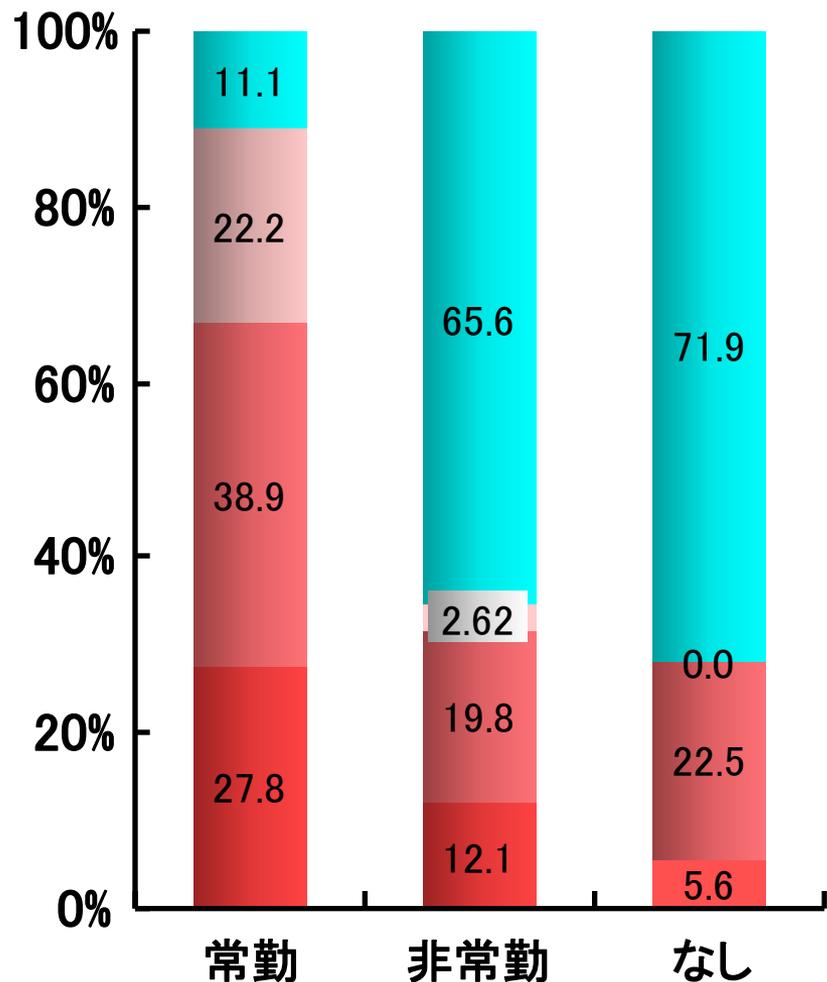
p=0.015

(人/千人あたり)

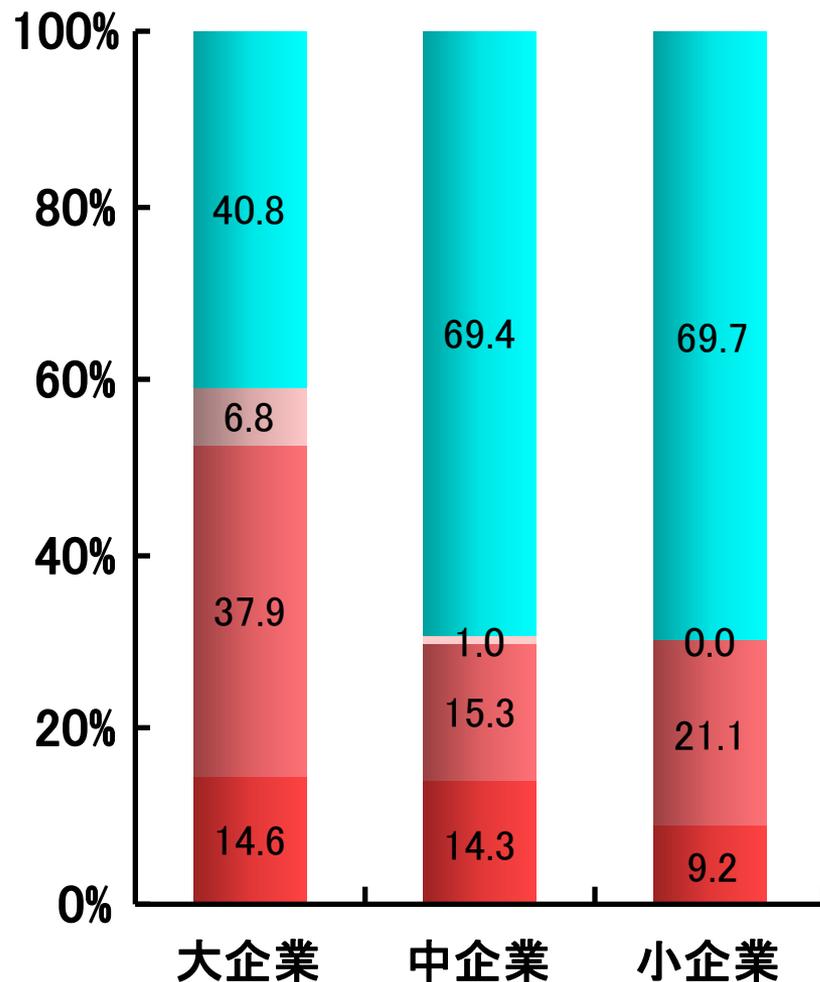


要経過観察従業員フォローについて

産業医別 $p=0.020$ (参考値)



企業規模別 $p<0.001$ (参考値)

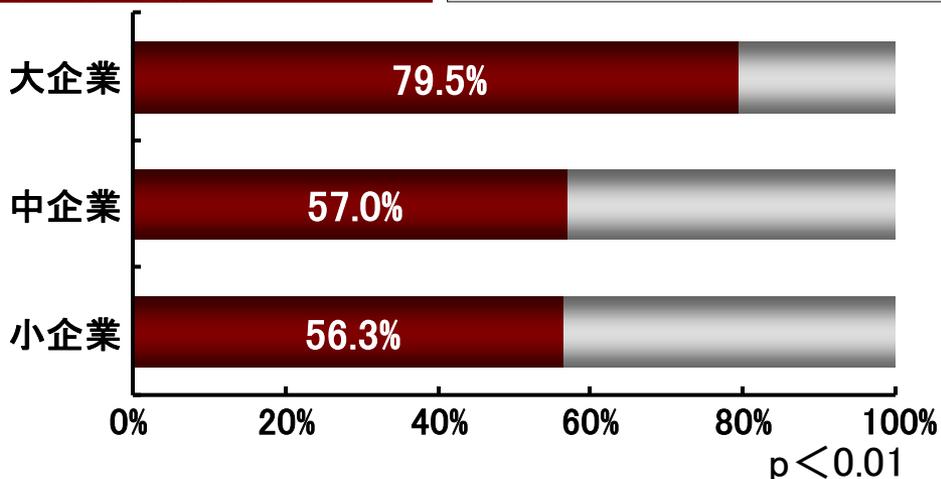
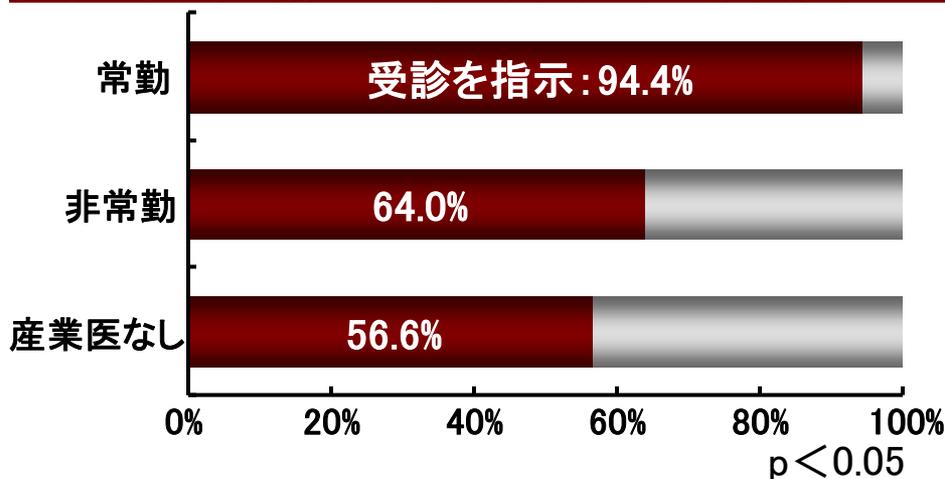


■ 定期的に検査 ■ 指導 ■ 検査もしくは指導 ■ 何もせず

糖尿病もしくは糖尿病が疑われる従業員への対処

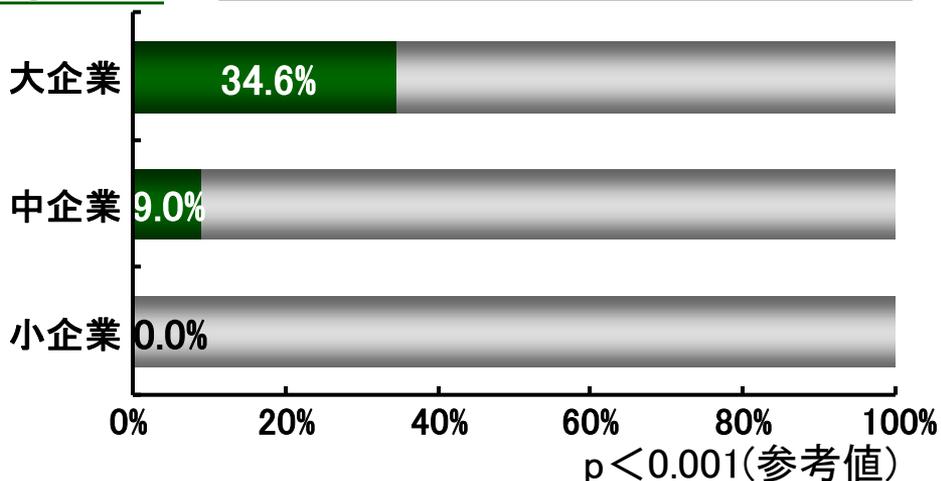
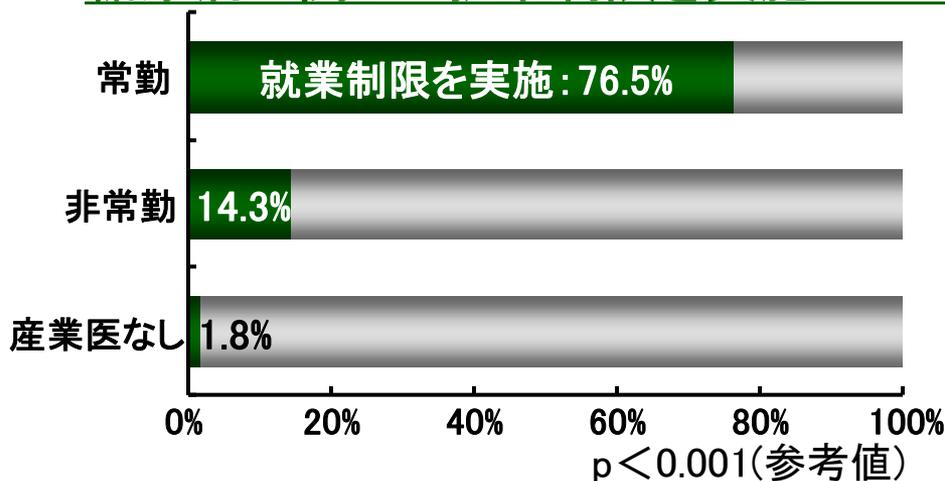
要医療、要精査の従業員に医療機関への受診を勧めるか？

■ 受診を指示 ■ 指示せず



糖尿病に関して就業制限を実施しているか？

■ 就業制限実施 ■ 就業制限なし



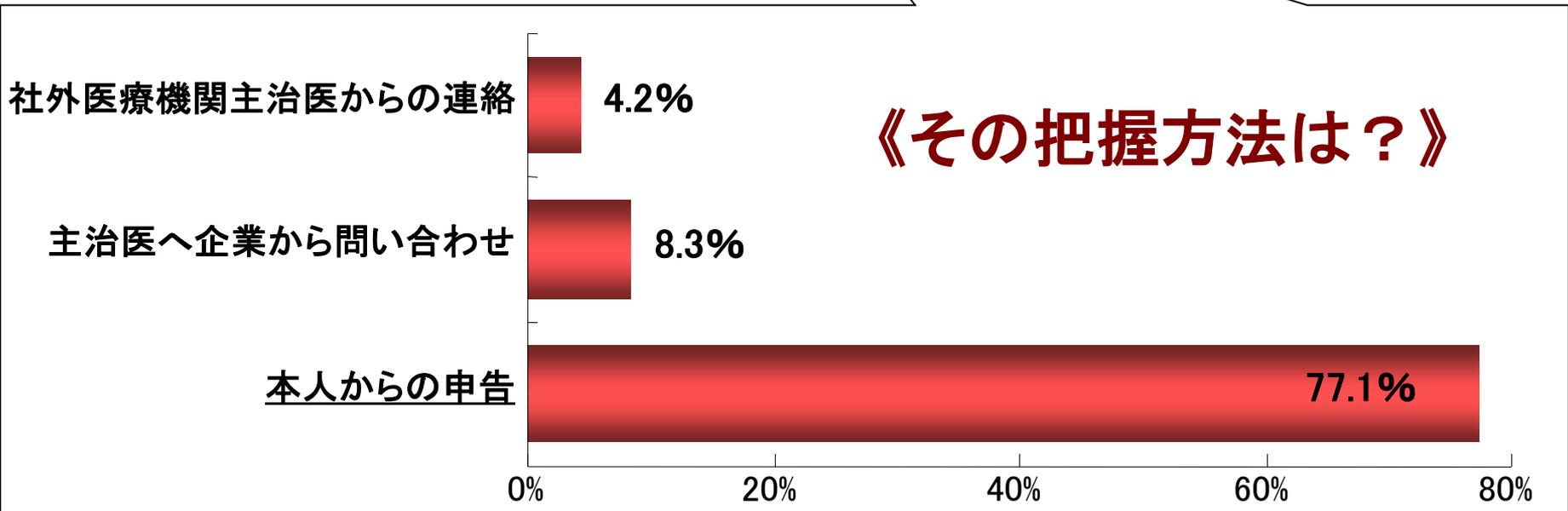
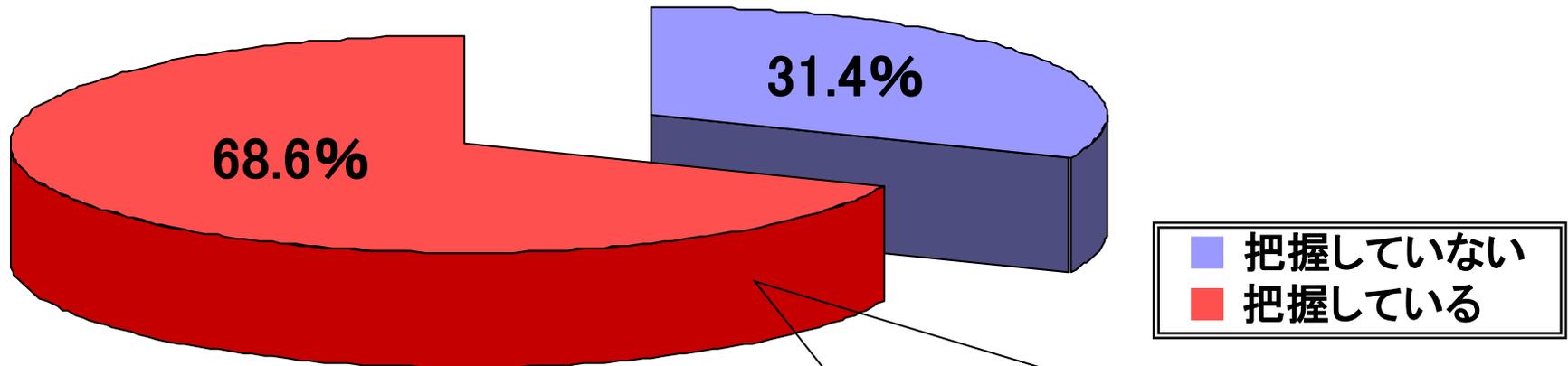
就業制限について

就業制限の理由

- HbA1c高値, 血糖コントロール不良: 58.3%
- 合併症: 44.4%
- インスリン治療: 36.1%
- 低血糖発作のため: 27.8%

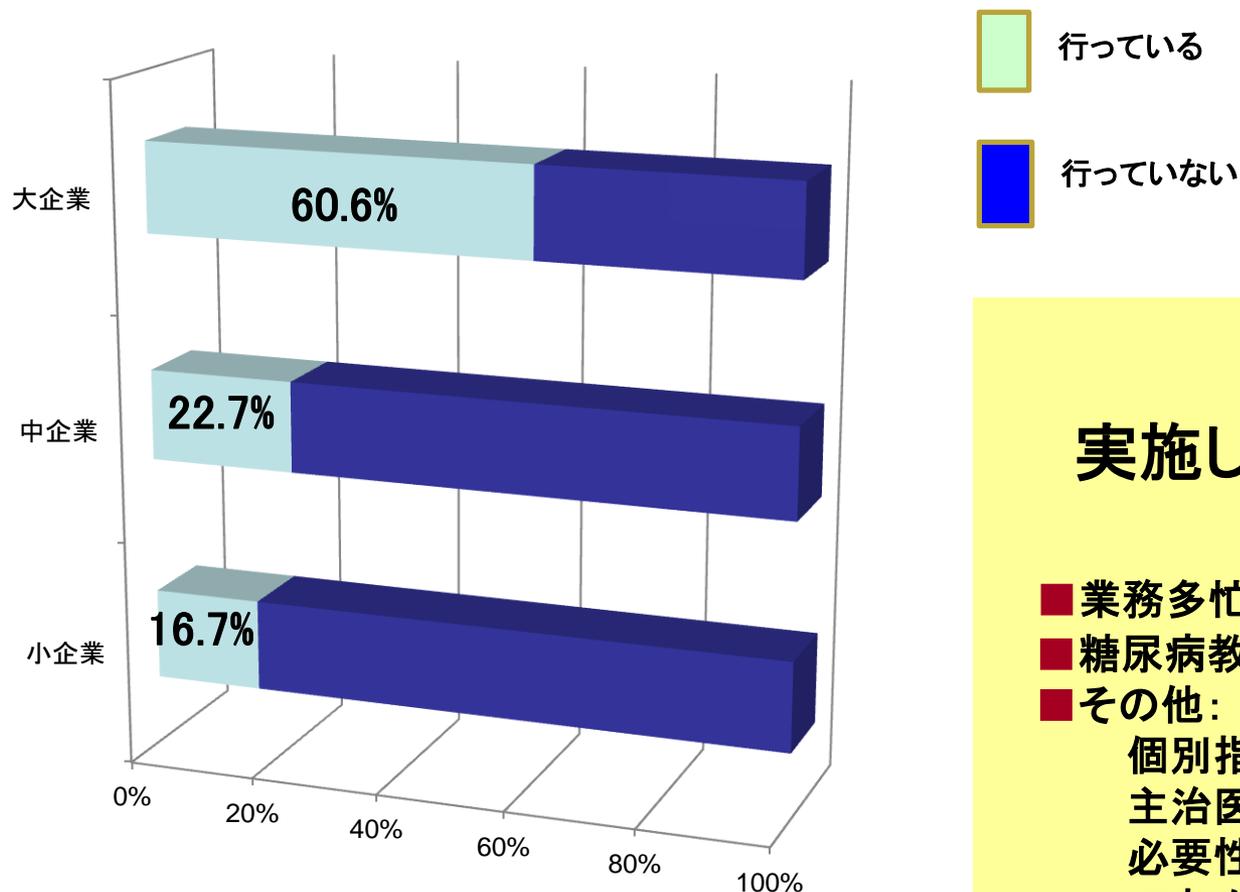
複数回答可

社外医療機関で糖尿病治療中の従業員の 治療状況の把握



社内での糖尿病教育

(生活習慣病の講習会や指導を実施していますか?)

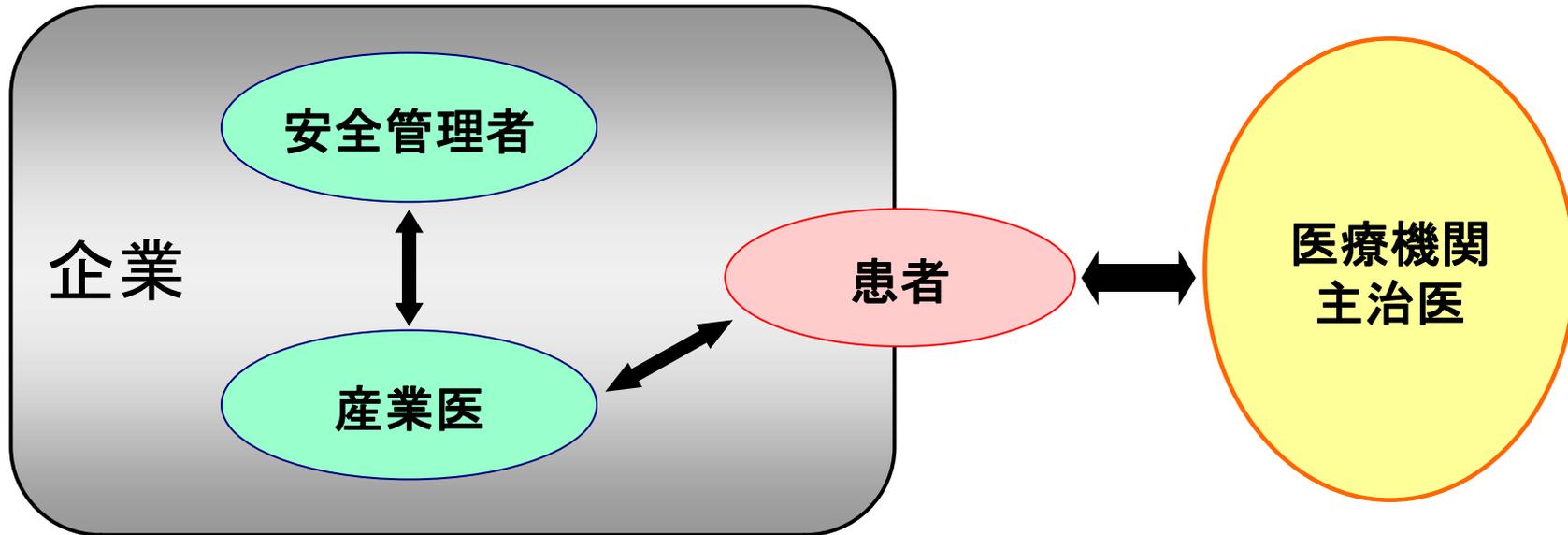


実施していない理由

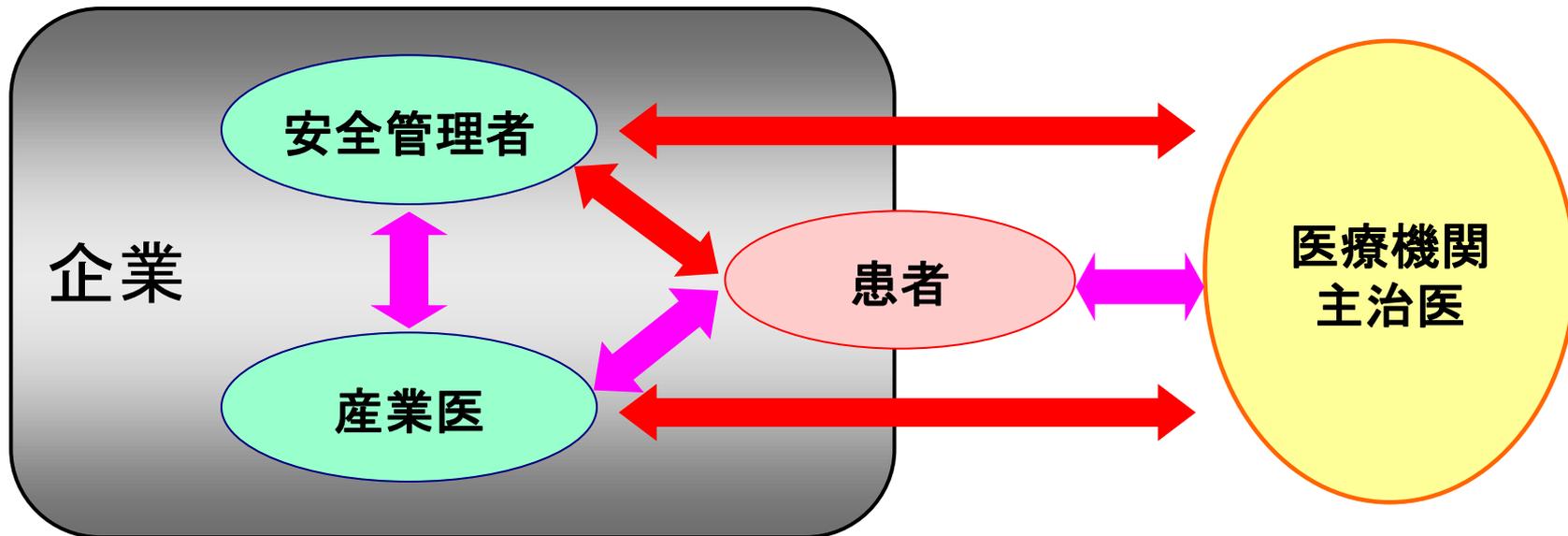
- 業務多忙のため: 24.6%
- 糖尿病教育は不要: 8.5%
- その他:
 - 個別指導をしているため
 - 主治医に任せている
 - 必要性が低い
 - これから取り組む予定である
 - など

患者・主治医・産業医・安全管理者の関係

現状



目標



アンケート調査の結果まとめ

* 患者調査より

- 1、産業医の存在は血糖コントロール・合併症の有無に係る
- 2、職場の医療スタッフと患者とのコミュニケーションに問題がある

* 企業調査より

- 1、企業によりHbA1c値の正常・要医療の判定に大きな差が存在する
- 2、社外医療機関で治療中の従業員の把握に問題あり
- 3、小企業ほど糖尿病有病率が高いが受診勧告率は低い
- 4、大企業ほど糖尿病患者の定期検査・指導に熱心である

明らかになった問題点

- * 企業医療スタッフの糖尿病知識
- * 企業医療スタッフと主治医との情報交換手段
- * 小企業における糖尿病患者対策

今後の活動予定

- * 本院のアンケート調査拡大(企業:東海地方へ 患者:医師会へ)
- * 他の労災病院にアンケート調査協力要請(患者・企業)
 - 1、本院と同様に製造業が多い地区(大規模病院)
 - 2、第三次産業が多い地区(大規模病院)
 - 3、地方の地区(中規模病院)
- * 患者を介して企業と医療機関の情報交換に役立つアイテムの作成
- * 検診・勤務に対するガイドラインの作成